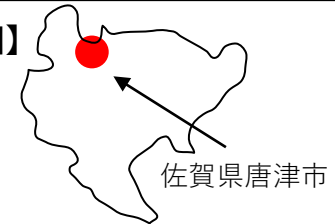


新規園芸農家の確保・育成を進める一貫体制づくり（研修農場の整備）

- JAからつ管内は県内有数の施設園芸の代表的な産地であるが、中山間地域が多く、農地条件や栽培条件等が厳しい。また、農業者の高齢化等により生産者の減少が見込まれ、新たな担い手の確保が課題となっている。
- R5年度に施設アスパラガスと施設いちご、R6年度に施設きゅうりでの新規就農希望者を受入れ、技術・経営面を支援していくための研修施設を整備。現在までに短期及び長期の研修生を受入れ。

【位置図】



佐賀県唐津市

取組前

- JAからつ管内は、県内でも有数のきゅうり等の施設園芸の代表的な産地である。
- 中山間地域が多く、農地条件や栽培条件等が厳しいことや、農業者の高齢化等による担い手の減少などによって農業者は減少傾向にあり、農業産出額が伸び悩んでいた。JAからつ管内の園芸産出額はH2年の220億円をピークに年々減少をたどり、R2年では138億円ほどになっている。
- JAからつ管内の新規就農者数は取組前は平均24名/年程度であった。

取組内容

- R5及びR6年度に管内の先進農家をトレーナーとし、研修施設を整備。
- 部会や市町、振興センターと連携を図り、研修内容の充実化、就農後のフォロー体制の整備、就農に向けて農地・ハウスの確保の支援を行っている。



写真：施設きゅうり研修施設
（きゅうりトレーニングハウス）

取組後(成果)

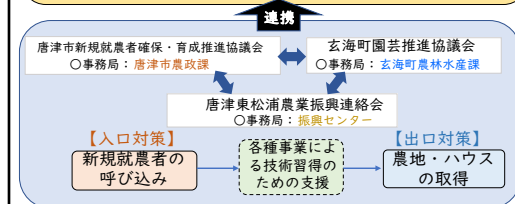
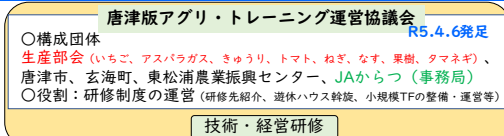
- 研修施設では、R7年度末までに、短期研修生2名、長期研修生6名の受入れを行っており、そのうち、2名が唐津市内で新規就農した。
- ※唐津市の新規就農者数
過去3年平均(R3～R5) 24人
→ R6:32人、R7:29人



写真：施設アスパラガス研修施設
（アスパラガストレーニングハウス）

【サポート体制】

新規園芸農家の確保・育成を進める一貫体制づくり



新規就農者や研修生の声

- 研修施設での研修だけでなく、部会の研修会にも参加させてもらえました。また、研修修了後もトレーナーや関係機関にアドバイスをもらえる体制ができ、技術だけではなく、営農に必要な人とのつながりも得ることができました。

サポート体制構築事業 活用年度：令和5～6年度

【問合せ先】唐津版アグリ・トレーニング運営協議会
（事務局：JAからつ）

TEL：0955-70-5256

E-mail：y_okaguchi13@saga-ja.jp